

魅力をゆるやかに感じよう

# と るカフェ

PO(元富良野市  
山本 美麗さん



北海道と  
つながる  
カフェ



第5回  
余市のぼりんファーム・モンガク谷  
ワイナリー 木原 茂明さん

ダンナは  
Uターン  
しナイト



第3回  
株式会社キタテラス  
代表取締役 神宮司 亜沙美さん

リノベーション  
函館  
移住計画



第4回  
箱バル不動産  
代表 蒲生 寛之さん

地域の  
よいもの  
をかナイト



第1回  
デザイン事務所カギカッコ  
代表 ゲンマ マコトさん

ニセコで  
ホホキ  
活かすナイト



第2回  
合同会社Hikobayu  
澤田 健人さん・佳代子さん

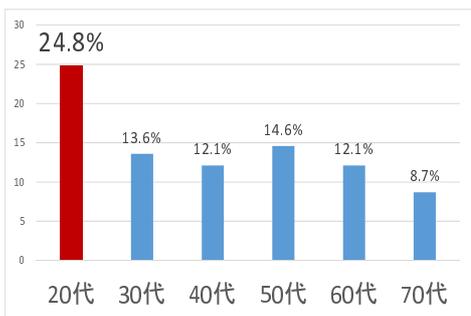
## 北海道とつながるカフェとは

平成30年度から首都圏で開催している「北海道とつながるカフェ」。この取組は、既に道内で活躍されている地域おこし協力隊員や先輩移住者の方たちから、首都圏の若い人たちに対して、北海道での暮らしや仕事の魅力を直接伝えていただき、潜在的な北海道への移住関心層の掘り起こしを目的とするものです。

人口減少が急速に進む道内では、地域活動や産業の担い手となる若者が不足している一方で、三大都市圏に住む若者の中には、地方への移住に強い関心を持っている方や、北海道にゆかりや関心のある方も多いことから、まずは、こうした方々の北海道と「つながりたい！関わりたい！」という思いにきっかけを提供し、北海道への「認知・関心」を高めるために開始しました。

若い人たちが気軽に足を運べるように北海道産のお菓子や飲料を提供するなど、カフェに近い雰囲気や情報交換や意見交換を行うほか、参加者同士の交流会も開催するなど、北海道ファンの獲得に向けたプログラムとなっており、昨年度は東京、横浜で合計9回開催し、延べ200人の方々が参加しました。

《 地方移住推進を希望する割合(三大都市圏) 》



【出所：2017年度国土交通白書】

▲ 地方移住へ高い憧れがある首都圏等の若者。

## 北海道とつながるカフェ 人気があった「コマ

各回で、若い人たちの興味・関心をひくよう心がけ、ユニークなテーマを設定。本道の様々な地域から職種や活動がバラエティに富んだ方々をゲストに迎えたほか、参加しやすい場所や時間を工夫し、幅広い方々に参加いただきました。

第3回のテーマは「ダンナを連れてUターンしナイト」。出産後、子供に豊かな体験を与えたいと家族で大樹町へUターンした神宮司さんをゲストに迎え、ロングステイ専門のゲストハウスやお菓子等のオンラインショップを経営するなど十勝を舞台とした自らの活動を紹介し

北海道では、地域や地域の人々と多様に関わる「関係人口」に着目。首都圏の若い人たちが北海道と継続的に関わることでできる仕組みを構築し、将来的な担い手確保につながる取組に力を入れています。今回はその取組の一つである、「北海道とつながるカフェ」を紹介します。



北の大地北海道の

# 北海道 つながる

世界遺産  
ガイド  
ナイト



第8回  
オホーツク自然堂  
代表 梅林 弘道さん

北の大地  
の水族館  
ナイト



第6回  
北の大地の水族館(山の水族館)  
館長 山内 創さん

～全道LOVEな学生企画～  
狩猟  
ゲストハウス  
々暮らし



第9回  
Guest House ぎまんち  
代表 儀間 雅真さん

イトウを  
守るナイト



第7回  
NPO法人シュマリナイ湖ワールド  
センター 黒田 綾子さん

北海道と  
もっつながる  
カフェ



第5回  
伊勢ファーム  
伊勢 昇平さん

第5回  
Café&Bread IPPC  
地域おこし協力隊



北海道と  
もっつながる  
カフェ



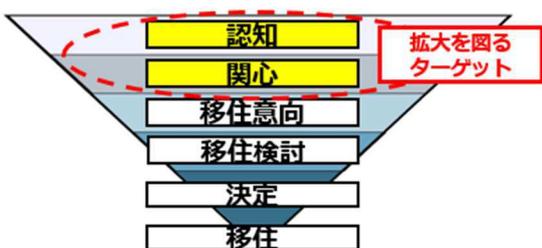
▲学生企画の第9回開催に向け会議を重ね、学生のリアルな思いを意見交換。

第6回は「北の大地の水族館ナイト」。独自の展示方法で注目される「山の水族館（北見市）」館長の山内さんからは、水族館で働くことになった経緯のほか、「真冬にバナナで釘を打てる！」とか「北見は焼き肉のまち！」など道東の暮らしの楽しみ方をプレゼンいただき、「北海道ライフの興味深い話が刺激的」などの感想がありました。

第5回は「もっつながるカフェ」として、「食」に関わる仕事をしているゲストを3名に、参加定員も2倍に増やした拡大版としました。中でも、国際線のファーストクラスの機内食で提供されたブルーチーズを生産する旭川市江丹別の伊勢さんは、「世界一のブルーチーズを作り、限界集落の江丹別を世界一の村にする！」と意気込みを語りました。参加者の中には、伊勢さんの夢にひかれて、その後、度々道内を訪問し、北海道移住を真剣に検討している若者もいます。

ただき、「家族移住のきっかけやイメージがつかめた」との感想が寄せられました。

《移住実現のステップ》



▲カフェの実施により、北海道への認知・関心層を拡大し将来的な移住につなげる

また、参加者が今後も北海道ファンとして互に関係性を高め、拡大・拡散していけるようSNSを活用したネットワークも構築しており、今後はこのカフェを通じて、首都圏の若い人たちの北海道への興味・関心がどのような分野にあるのかなどを把握・分析し、移住施策に反映させるとともに、関係人口の拡大につなげていきたいと考えています。

平成31年2月に開催した第9回では、これまでカフェに参加した学生が中心となって企画・運営を行いました。若い人たちが、自らの「北海道への思い」を発表する時間を作り、プレゼンを行うなど、カフェの開催を重ねることで、当初想定していなかった「首都圏の学生が主体」となった取組にもつながるなど、着実に成果も出ています。

北海道の関係人口の  
拡大に向けて

## ～木古内町と江戸川区の交流～

# 自然と人、スポーツで つながる絆



### 木古内町と江戸川区の縁

木古内町と江戸川区の交流は、東京23区の特別区長会が立ち上げた「特別区全国連携プロジェクト」の下、北海道町村会（渡島町村会）と江戸川区が協定を締結したこと、さらに木古内町の姉妹都市である山形県鶴岡市と江戸川区が友好都市であることが縁で始まりました。

平成27年度から始まった交流は、渡島地域として木古内町・七飯町・鹿部町・森町の4町が江戸川区のイベントに参加し、それぞれの町の特産品や観光のPRなどを行いました。平成28年度以降は、渡島管内の各町を巡る、モニターツアーも実施するなど、渡島地域として交流を深めていきました。

こうした交流がきっかけとなり、木古内町と江戸川区との独自の交流も始まっています。

### 自然と人、地域に触れる

木古内町はこれまで、道内外からの体験型教育旅行を誘致するなどの体験観

北海道新幹線が開通し、道南の新たな玄関口となった木古内町は、津軽海峡の豊富な魚介類と、ブランド牛の「はこだて和牛」、町産米を使用した地酒「みそぎの舞」など、自然の恵みの豊かな町です。  
その木古内町では近年、特別区である東京都江戸川区との交流に力を入れることにより、地域外の人たちとの継続的な関わりを深める「関係人口」の拡大の取組にもつなげています。今回はその経緯や、取組の内容についてお話を伺いました。

（取材者 宮腰、守屋）

光の推進に力を入れており、約10年間で延べ5千人以上を受け入れてきました。

こうした背景から、平成29年8月には江戸川区立下小岩第二小学校の6年生37人が宿泊体験に訪れました。

人口約69万人の江戸川区と、人口約4千人の木古内町との交流は、江戸川区では、都会で経験できない様々な体験を通じて、児童の成長を図ることを目的とし、また、木古内町では、まちの魅力である食や農水産業、文化などに触れることが出来る体験観光の推進を目的としています。

子供たちは、町内の寺院のほか、一般家庭にも宿泊し、漁船の乗船体験や地引



▲ 地引き網体験の様子



▲ 保護者向け報告会の様子

子供たちは、江戸川区に戻った後で、木古内町で体験したことを「交流事業保護者向け報告会」で発表しました。報告会には子供たちの保護者のほか、木古内町の関係者も招かれ、体育館で町での体験を紹介する寸劇や、スライドを使った発表を観覧しました。

その後、町の関係者が校長室で話をしているとき、大勢の子供たちが部屋に入ってきて熱烈的な歓迎を受け、大変感激したといいます。

翌年度の平成30年度には江戸川区との新たな交流として、昨年までの自然体験や民泊体験に加えて、スポーツを通じた

地域との関わりを深める

き網体験のほか、農家では搾乳体験を行うなど、木古内町の自然や人々と触れ合いました。



▲ 野球を通じての交流

今年度も江戸川区の小学5、6年生の子供たちが訪れる予定で、自然体験やスポーツ交流を行う内容になっています。距離は離れていても木古内町を第2の「ふるさと」と思ってもらうことで、その良さを広めてもらいたい。今後は、木古内町の子供たちが江戸川区を訪れる形の相互交流も含めて、二つの地域の関わり合いを続けていきたいと町では考えています。

今後の取組

新たな体験教育観光として、江戸川区野球少年団の子供たち20人が木古内町を訪れ、野球の試合を通して交流を行いました。子供たちはいずれも6年生で、区内の各野球チームから1〜3人ずつ選ばれた強豪選手です。迎え撃つ地元選抜チームは町の野球チームの木古内ジュニアホークスのほか、知内町、北斗市、函館市の野球少年団員が参加する選抜チームでした。第1試合は7対6で、第2試合は3対2で、いずれも地元選抜チームがサヨナラ勝ちしました。

中学生に  
進学!!

元木古内ジュニアホークスの二人に聞きました!

元父母会長さん  
にも伺いました!

平野 武志さん  
当時：木古内ジュニア  
ホークス 父母会長

新井田 匠くん  
当時：木古内ジュニア  
ホークス 主将

平野 心太くん  
当時：木古内ジュニア  
ホークス 副主将



交流で思い出に残っていることは。

新井田くん：江戸川区の強いチームと良い試合が出来て、自信になりました。

平野くん：野球の思い出が1番ですが、体験したことがないこともできたので楽しかったです。

交流をふまえての今後は。

新井田くん：試合での良かったことも悪かったことも全部これからにいかして野球を続けていきたいと思います。

平野くん：江戸川区のようにレベルの高いチームがあるので、そこに追いつけるように頑張っています。

子どもたちの交流について。

江戸川区と木古内町の間で始まった交流ですが、渡島地域の市町村で選抜チームを組むことで、普段と違ったメンバーでそれぞれ協力し、団結力を発揮していました。そういった経験は、子供たちのこれからの糧になると思います。

